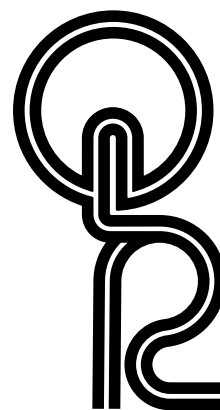


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 8 No. 3, 2001



千葉県館山市香の海食洞露頭(ノッチの最深部は海拔25.3m,約5500年前).『房総半島の地震性地殻変動:新しい視点』フィールドワークショップ巡検にて.本文5頁参照.撮影:奥村晃史

Vol. 8 No. 3		June 1, 2001	
日本第四紀学会 2001 年大会第 3 報	2	5th CEAPE: Hong Kong 2001	9
房総ネオテクトニクス巡検報告	5	ESR 国際シンポジウム	10
アジア太平洋層序研究委員会お知らせ	5	AMS-9: Nagoya 2002	11
講演会・研究集会案内	7	産業技術総合研究所 公募	12
自然史学会連合シンポジウム	8	幹事会議事録	13
¹⁴ C & Archaeology 4 th symposium	8	会員消息・発行日程変更	14

2000年第四紀学会大会のお知らせ(第3報)

1. 大会内容, 日時, 開催場所の概要
大会内容: 一般研究発表, シンポジウム, 総会, 評議員会, 普及講演会, 巡検
日程: 2001年8月1日(水)~4日(土)
開催場所: 鹿児島市 鹿児島大学
2. 発表の申し込み(6月1日に締め切りました.)
3. シンポジウム「南九州における縄文早期の環境変遷」
4. 普及講演会「第四紀の自然と人間 - 琉球から南九州へかけての植物・動物・ヒトを結ぶ道 - 」
共催: 鹿児島大学総合研究博物館
5. 巡検の概要「薩摩半島南部(指宿地域)の遺跡とテフラ」(申し込み, ほか)
6. 懇親会
7. 講演予稿集の販売について
8. その他: 評議員会, 総会について. 委任状提出のお願い.
9. 宿の案内

1. 大会内容, 日時, 開催場所の概要

研究発表大会及びシンポジウム

日程: 2001(平成13)年8月1日(水)~3日(金)

開催場所: 鹿児島大学教育学部101号大講義室

(参加費2000円)

実行委員会: 委員長: 大塚裕之

委員: 井村隆介, 岩船昌起, 大木公彦, 小林哲夫, 笹川幸雄, 塚田公彦, 成尾英仁, 森脇 広

連絡先: 井村隆介 鹿児島大学理学部 〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-35

Tel 099-285-8144, Fax 099-259-4720 imura@sci.kagoshima-u.ac.jp

巡検 日程: 2001(平成13)年8月4日(土)

実行委員: 成尾英仁・大木公彦ほか

連絡先: 成尾英仁 鹿児島県立博物館 〒892-0823 鹿児島市城山町1番1号

Fax 099-223-6080

普及講演会 日程: 2001(平成13)年8月4日(土)

開催場所: 鹿児島大学稲盛会館 連絡先: 井村隆介

大会日程(まとめ) 8月1日(水) 一般研究発表, ポスター展示, 夕方: 評議員会
8月2日(木) 一般研究発表, ポスター展示, 総会, 夕方: 懇親会
8月3日(金) シンポジウム
8月4日(土) 普及講演会(午後), 巡検(終日)

2. 発表の申し込み

発表の申し込みは6月1日に締め切りました.

3. シンポジウム

「南九州における縄文早期の環境変遷」

シンポジウム世話人: 小林哲夫, 森脇 広

プログラム

9:00-9:10 シンポジウム趣旨説明 シンポジウム世話人会

午前の部: 上野原遺跡(縄文文化の芽生えと環境)(9:00-12:20)

S1. 9:10-9:45 南九州に分布する第四紀末テフラとその年代学 奥野 充(福岡大・理)

S2. 9:45-10:20 上野原遺跡周辺の植生と環境 杉山真二(古環境研究所)

<コメント>

S3. 10:20-10:30 化石からみた鹿児島湾の環境変遷 大木公彦(鹿児島大学・総合研究博物館)

休憩30分(10:30-11:00)

S4. 11:00-11:35 南九州縄文時代早期の先駆性~国分市上野原遺跡の調査事例から

..... 黒川忠広(鹿児島県埋文センター)

S5. 11:35-12:10 桜島火山の噴火災害の歴史 小林哲夫(鹿児島大・理)

<コメント>

S6. 12:10-12:20 火山災害の評価と戦略に関する考古学的アプローチ - 橋牟礼川遺跡の事例から -

..... 下山 覚(指宿市教委・博物館)

昼食 1時間 10分 (12:20-13:30)

午後の部：鬼界 - アカホヤ噴火は南九州にどのような影響をあたえたか？ (13:30-15:55)

S7 .13:30-14:05 アカホヤ噴火と完新世の地形変化 森脇 広 (鹿児島大・法文)
<コメント>

S8 .14:05-14:15 アカホヤ噴火に伴って発生した巨大地震 成尾英仁 (鹿児島県博)

S9 .14:15-14:50 アカホヤ噴火が縄文文化 (人間生活) に与えた影響
..... 新東晃一 (鹿児島県教育庁・文化財課) <コメント>

S10 . 14:50-15:00 植生の変遷 - 自然環境への影響 松下まり子 (神戸大・大教センター)
休憩 20分 (15:00-15:20)

S11 . 15:20-15:55 鬼界アカホヤ火山灰と縄文早期の土器編年 桑畑光博 (宮崎県都城市教委)
総合討論

16:00-17:00 南九州における縄文早期の環境変遷 司会：井村隆介 (鹿児島大・理)

4. 普及講演会

テーマ：

「第四紀の自然と人間 - 琉球から南九州へかけての植物・動物・ヒトを結ぶ道 - 」

日程：2001年8月4日(土)(13時より17時まで)

共催：鹿児島大学総合研究博物館

講演者：小田静夫 (東京都), 堀田 満 (鹿児島大学), 大塚裕之 (鹿児島大学)

13:00-13:10 趣旨説明 講演会世話人 大塚裕之 (鹿児島大学)

1. 13:10-13:55 考古学からみた新・海上の道 小田静夫 (東京都庁)
質問 13:55-14:00

2. 14:00-14:45 北からと南からと、そして西からも - 植物の場合 堀田 満 (鹿児島大学)
質問 14:45-14:50

3. 15:20-16:05 南西諸島の動物たち：それらの来た時期と来た道 大塚裕之 (鹿児島大学)
休憩 14:50-15:20

16:05-17:00 全体討論 司会：小池裕子 (九州大学)

5. 巡検

「薩摩半島南部 (指宿地域) の遺跡とテフラ」

薩摩半島に分布するテフラ層の観察と、テフラによる災害の痕跡を訪ねる。

シンポジウムの内容に関連した巡検です。

日程・案内者・コース・必要地形図・募集人員：

日程：8月4日(土) 薩摩半島南部の指宿地域

案内者：成尾英仁 (鹿児島県博物館), 大木公彦 (鹿児島大) ほか

集合：鹿児島大学教育学部前 (8:30) 指宿市幸屋 (入戸火砕流等観察) 指宿市水迫遺跡

指宿市立考古博物館 (COCCOはしむれ) 見学 開聞町川尻 (開聞岳テフラ) 池田湖見学

解散：16時30分 鹿児島大学教育学部

必要地形図：5万分の1 「喜入」, 「開聞岳」

募集人員：40名 移動：大型バス 参加費用：4000円程度

申し込み方法：

参加を希望の方は、葉書またはFAXにて、氏名、性別、所属、連絡先 (住所、電話、FAX番号、E-mailアドレス) 既に定員オーバーの場合のキャンセル待ち希望の有無を明記のうえ、下記宛て申し込んでください。先着順に受け付けます。電話での受付はいたしません。受付後、個別に案内などをお送りします。なお、参加確認と参加費の徴収および巡検案内書の受け渡しは、学会期間中に巡検コーナーを設けて行う予定です。巡検のみ参加される方は、その旨をお書き添えください。

申込先：〒892-0823 鹿児島市城山町1番1号

鹿児島県立博物館 成尾 英仁 Fax 099-223-608

申込締切：7月7日(土) (先着順に受け付けます)

6. 懇親会

日時：8月2日（木）18時から
場所：鹿児島大学教育学部生協食堂（エデュカ）
懇親会参加費：未定

7. 講演予稿集の販売について

講演予稿集の予約販売は致しません。8月1日（水）より、会場受付にて直接販売致します。
郵送ご希望の方は、大会終了後、第四紀学会事務局（学会事務センター）へ直接申し込んで下さい。

8. その他

評議員会は、8月1日（水）の夕方に実施致します。時間、会場等の詳細については、学会事務局より各評議員に個別に連絡いたします。また、8月2日（木）の総会では、INQUA日本招致に関して議論する時間を設けます。会員の率直なご意見をお聴かせください。
総会に出席されない方は、必ず下の様式で委任状を提出して下さるようお願いいたします。

9. 宿泊案内

日本第四紀学会鹿児島大会の宿泊案内です。鹿児島市周辺の宿泊施設はたくさんあります。ここでは、会場への交通の便がよいものについてリストアップしました。宿泊申込は各自で行って下さい。なお、料金等は申込の際にご確認下さい。

『鹿児島大学周辺』			
きしゃばビジネスホテル	099-259-1111	5000円～	鹿児島市荒田二丁目 76-13
『西鹿児島駅周辺』			
ホテルガストフ	099-252-1401	5300円～	鹿児島市中央町 7-1
タイセイアネックス	099-257-1111	5500円～	鹿児島市中央町 4-32
ホテル石原荘	099-254-4181	5500円～	鹿児島市中央町 4-14
ビジネスユニオン	099-253-5800	5500円～	鹿児島市西田町 2-12-34
鹿児島第1ホテル	099-255-7591	5600円～	鹿児島市鷹師町 1-4-1
ホテルタイセイ	099-256-6111	5665円～	鹿児島市西田町 1-4-23
シティホテル鹿児島	099-258-0331	6000円～	鹿児島市西田町 2-20-12
ステーションホテルニュー鹿児島	099-253-5353	6500円～	鹿児島市中央町 6-5
パルセスイン鹿児島	099-258-1515	6700円～	鹿児島市西田町 2-27-24
鹿児島東急イン	099-256-0109	7900円～	鹿児島市中央町 5-1
シルクイン鹿児島	099-258-1221	5800円～	鹿児島市上之園町 19-30

（シルクインは予約の際に「鹿児島大学の紹介」と伝えらると5%off）

委任状様式：コピー（官製はがきに貼付でも可）または同様の文面の書状でも結構です。

送付先：305-8567 つくば市東1-1-1 中央第7

産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門 斎藤文紀（庶務幹事）

委 任 状

2001年 月 日

日本第四紀学会会長殿

氏名 _____（署名または捺印）

所属 _____

私は議長（または _____ 氏）を代理人と定め、2001年度日本第四紀学会総会における一切の議決権を委任します。

『房総半島の地震地殻変動：新たな視点』フィールドワークショップ報告

後藤秀昭（福島大学教育学部）

日本第四紀学会ネオテクトニクス研究委員会が主催するフィールドワークショップ「房総半島の地震地殻変動：新たな視点（オーガナイザー：宮内崇裕・苅谷愛彦・奥村晃史）」が5月12日・13日に開催された。

5月12日午後には千葉大学でシンポジウムが開催され、巡検案内者らによる研究発表や討論が行われた。翌13日には、シンポジウムの議論の対象を発表者の案内によって現地を確認し議論を深めるための巡検が実施された。参加者はネオテクトニクスを専門とする研究者や学生のほか地元高校の教師など25名であった。案内者は藤原 治（核燃料サイクル機構）、石田大輔（アジア航測（株））、宍倉正展（産業技術総合研究所活断層研究センター）の各氏である。

5月12日のシンポジウム終了後、巡検参加者は館山市布良に移動して宿泊し深夜まで懇親につとめた。5月13日の8時過ぎに一行は宿を出発し、stop 1である房総半島南端付近の白浜町根本へと向かった。ここでは現世のベンチと大正地震の際に離水したベンチを見ることができた。大正地震の離水ベンチは標高約2mに位置し、現世のベンチとの間には急崖で境されている。離水ベンチの表面には、人工的に削られた四角い凹地があり、大正地震前の「いけす」の跡であることが説明された。離水ベンチの崖にはヤッコカンザシの化石や多数の生痕化石を見ることができ、生痕化石のなかには貝化石の残っているものもあった。巡検時はちょうど満潮時にあたっており、中潮位付近に生息するヤッコカンザシを見ることができなかつたのは残念であった。その後、バスで元禄段丘、沼川面をあがり、完新世段丘を車窓より観察した。

stop 2は海岸から約2.5 km 東に入った館山市龍岡の巴川河岸であった。河床において、深さ20～30 cmの川を渡り、対岸の露頭を観察した。この露頭ではシルト層とそれに挟まれる4枚の津波堆積物と思われる砂層を見ることができた。露頭の凹凸から4枚の砂層があることは対岸からでも認識できた。シルト層は青灰色をした均質な地層で、ウラカガミなどの内湾に生息する貝が自生の状態で含まれているのに対し、砂層には貝化石やレキが含まれていた。藤原氏の緻密な露頭観察と堆積環境復元の努力から、砂層が津波堆積物であることはかなりの説得力を持っているように感じられた。露頭前では津波堆積物の認定だけにとどまらず、露頭から推定される津波がどこから来たのか、その襲来間隔は何を示して

いるのかなどの活発な議論がなされた。

次に館山湾南岸に位置する館山市香（こうやつ）に移動し、離水侵食海岸地形を観察した（stop 3）。最初に古道と周辺の地形から元禄地震前の海岸線について説明を受けた後、かつての内湾に向かって移動した。沼サンゴ化石の産出を観察して、沼Ⅱ段丘の高度を確認した。これらの段丘の奥には、段丘面の高度より高い位置にノッチや海食洞が分布し、それらには巣穴化石や貝化石、サンゴ化石などが付着しているのが観察できた。ノッチの後退点の高度とサンゴ化石の年代から、約5600Cal. B.P.の旧汀線高度は25.3mと推定されるとの説明を受けた。藪をかき分けながら急斜面を登っての観察はたいへんであったが、そのような場所から離水地形を見いだした石田氏の努力に感心したのは私だけではないだろう。その後、館山市八幡の北条海岸にて海を眺めながら昼食をとった。

午後は最初に館山低地の離水海岸地形を観察した（stop 4）。北条海岸沿いの道路から元禄地震および大正地震によって離水した地形を遠望した。絵地図から元禄地震前には海岸縁にあったと推定される八幡神社が数100m内陸に位置し、それをのせる浜堤は海岸沿いの道路より明らかに高い位置にあることを確認した。元禄地震の際に離水したと思われる沼Ⅳ段丘から推定される旧汀線高度は3.8 mで、大正地震による隆起量は1.4 mであったことから、元禄地震の際には2.4 mの隆起が推定できるとの説明であった。その後、再びバスに乗り、館山低地を横断して低地の地形を車窓から観察した。宍倉氏の説明によると、館山低地は大きく4つの海成段丘面に分けられることが知られていたが、それぞれの段丘面を詳しくみると、海側に幅の狭い浜堤が数列ありその背後には広い平坦面が共通して発達していることが解ってきたそうである。微細な地形を車上より観察しなければならぬもどかしさを感じつつ、午前中に観察した白浜町の侵食段丘の形成過程と比べれば、それなりの説得力を持っているように感じられた。この後予定されていた平久里川の津波堆積物観察は時間がないために割愛された。

stop 6は岩井低地の離水海岸地形の観察であった。岩井低地には10列におよぶ浜堤列が認められるが、元禄地震の際には地殻の上下変動がなかったことから、それらの浜堤列は大正型地震によって形成されている可能性があるとの説明を受けた。低地をバスで横断して浜堤の小さなアップダウンを繰り返した

がら次第に高度を増しているのを観察した。その後、海岸付近の地形を観察して堤間湿地と浜堤の認定について検討した。また、ジオスライサーによって採取された地層のはぎ取りを用いて、岩井低地の発達史についての説明があった。最後に保田低地に移動し、元禄地震時に隆起した証拠がないにも関わらず、離水海岸地形が発達しているのを地震前後の絵地図や地形・地質データに基づいて説明を受けた (stop7)。

今回の巡検は、前日にミニシンポジウムでの発表を聞いた後に、発表者自身の案内によって現地を訪

れたものであり、現地の様子を理解するのは容易であった。発表者らの緻密な調査によって、これまでの房総半島の地殻変動像は大きく変わりつつある。その根拠となった地形・地質を調査者自身の案内によって観察できたことに多いに満足できる巡検であった。巡検当日は幸い晴天に恵まれ、暑ささえも感じる日和であったが、その中で丁寧に説明した細やかに世話をしてくださった案内者の方々と宮内崇裕氏、荻谷愛彦氏、千葉大学の学生諸氏に御礼申し上げます。

アジア太平洋層序研究委員会からのお知らせ

1. 国際シンポ『ロディニア、 Gondwana 超大陸の形成・分裂とアジア大陸の成長』

標記のシンポジウムの開催予告はすでにニュースレター Vol. 7, No. 4 でお知らせしましたが、第四紀関係のシンポジウムトピックスも確定し、プログラムもほぼ決まりかけていますので再度お誘いの案内をいたします。なお、このシンポは INQUA アジア太平洋層序小委員会と第四紀学会アジア太平洋層序研究委員会も後援しています。

日程：2001 年 10 月 26 日～30 日

場所：大阪市立大学学術情報総合センターほか

主催：大阪市立大学, IGCP-368, IGCP-411, IGCP-440, IAGR

第四紀関係のトピックス：

9. アジア・太平洋地域の第四紀層序学 (INQUA アジア太平洋層序小委員会)

10. アジア・Gondwana の環境地質, 自然災害, 都市地盤

参加費：一般 \$150, 学生 \$100

連絡先とホームページ：

ISRGA 事務局, 大阪市立大学大学院理学研究科,
大阪市住吉区杉本 3-3-138

Tel: 06-6605-3184, FAX: 06-6605-2604

E-mail: symposium2001@sci.osaka-cu.ac.jp

<http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/geos.English/symposium.html>

2. 現地シンポ『第四紀層序からみた火山ハザードマップ』(仮称)

第四紀総合研究会と第四紀学会アジア太平洋層序研究委員会共催で標記のシンポジウムを本年 10 月 6 日(土)～8 日(祝), 山梨県環境科学研究所(山梨県富士吉田市)で開催します。

いわゆるローカルテフラや第四系の中の火砕堆積物をハザードマップにどう反映させるかなどがメインテーマになります。興味のある方は研究委員会までご連絡ください。6 月中旬には詳しいご案内を出す予定です。

連絡先：熊井 久雄

大阪市立大学大学院理学研究科生物地球系,
大阪市住吉区杉本 3-3-138

Tel: 06-6605-2589, FAX: 06-6605-2522

E-mail: kumai@sci.osaka-cu.ac.jp

相模原市立博物館連続講演会「地域をみる眼」

第1回「富士山の噴火と自然史」

主催：相模原市立博物館

日時：平成13年6月24日(日) 午後2時 - 4時 (1時30分開場)

内容：地学からみた富士火山の特徴や噴火史を、宝永の噴火や南関東の火山灰をまじえて紹介しながら、富士山の将来を探ります。

講師：町田 洋氏(東京都立大学名誉教授)

会場：相模原市立博物館地階大会議室

対象：15歳以上の方(中学生を除く)

定員：200名(当日受付先着順)

費用：無料

連絡先：相模原市立博物館(担当 学芸員 金井憲一)

〒229-0021神奈川県相模原市高根3-1-15 TEL042-750-8030 FAX042-750-8061

<http://www.remus.dti.ne.jp/~sagami/index.htm>

第45回粘土科学討論会

1) 期日：平成13年9月13日(木)・14日(金)

2) 主催：日本粘土学会

3) 会場：東洋大学朝霞キャンパス(2号館) 埼玉県朝霞市岡2-11-10

4) 特別講演：生沼 郁(東洋大学経済学部教授)「須藤先生と日本粘土学会の足跡と将来」

5) 須藤俊男先生メモリアルシンポジウム：「21世紀の粘土科学

粘土科学の過去・現在・未来 -21世紀への跳躍と夢」

6) 連絡先：東洋大学経済学部社会経済システム学科

西山 勉 TEL:048-468-6631(実験室)または048-468-6721(研究室)

FAX:048-468-6790(2号館) e-mail:nishiyam@toyonet.toyo.ac.jp

7) 交通と宿泊：会場までは池袋駅から東武東上線で急行15分、朝霞台駅下車徒歩10分。またはJR武蔵野線北朝霞駅下車、徒歩10分。宿泊は池袋界隈が便利かと思われ

Achieving Climate Predictability using Paleoclimate Data

- EuroConference on Abrupt Climate Change Dynamics -

Supported by the European Commission, Research DG, Human Potential Programme, High-Level Scientific Conferences (Contract No: HPCF-CT-2000-00152)

With the growing awareness that the Earth's climate system can shift abruptly, and without warning, from one climate state to another, comes the imperative to develop the scientific understanding needed to anticipate climate "surprises" of the future.

Details on the scientific content and the practical organisation: <http://www.esf.org/euresco/01/lc01170b.htm>**Dates:** 10 - 15 November 2001 (Applications by 15 August 2001)**Location:** Castelvechio Pascoli (Italy)**Chaired by:** Jean-Claude Duplessy (Gif-sur-Yvette), Vice-chairman: Thomas Stocker (Bern)**Participation:** Maximum 100 participants. Fees EUR 670 - 780 (FF 4394,91 - 5116,46)

Grants available for young scientists from European Community countries and Associated States.

Additional funding will also be available for participants from Eastern Europe and the former Soviet Union, Africa, Asia and South America.

Application deadline: August 15, 2001Download and fill the form at <http://www.esf.org/euresco/01/lc01170a.htm>**Contact:**

Dr. Josip Hendekovic or Mr. Rachid Adghoughi for more information.

Phone: +33 388 76 71 35, fax: +33 388 36 69 87 email: radghoughi@esf.org*Please quote 01-170 in any correspondence*

自然史学会連合 シンポジウム
「遺体が語る自然史」

日時：2001年11月10日（土）午後1時から5時頃まで

場所：国立科学博物館新宿分館講堂

ねらい：

「死」は一般社会においてはネガティブな概念であり、そこに生じる「遺体」はあくまでも日常の社会生活とは縁の遠い存在である。しかし、ナチュラルヒストリーは、まさしく「遺体」を研究対象とすることで発展してきた歴史を有する。「遺体」に取り組む最前線の研究者の研究成果を、一般社会人・学生を対象に平易に紹介する。分野としては、動物学・植物学・古生物学・医学・解剖学・考古学からの話題提供がなされ、これら各分野を有機的に結び付けてきたナチュラルヒストリーの全体像を紹介する機会となる。また分析型生命科学が隆盛をきわめるなかで、研究対象としての遺体を取り巻く環境は大きく変わりつつある。参加する社会人や学生らとともに、多彩な研究成果を自然科学にもたらしてきた「遺体」の、現在・過去・未来を議論する。

プログラム：

13：10～ 遠藤秀紀（国立科学博物館動物研究部） 遺体が創る科学

13：55～ 中島 功（昭和大学歯学部口腔解剖学） 遺体が語る「本人も知らない自分」
（休憩）

14：50～ 塚越 哲（静岡大学理学部生物地球環境科学）

太古の遺体 - 化石がもたらす生物進化の情報 -

15：35～ 辻 誠一郎（国立歴史民俗博物館） 遺跡出土の遺体が語る人の生活と環境

16：20～ フリーディスカッション 遺体標本で博物館の高度化を図る

参加申し込みは不要です。どうぞ途中からでも自由にご参加ください。

お問い合わせ先：

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-23-1 国立科学博物館

遠藤秀紀、篠原現人、加瀬友喜（自然史学会連合事務局）

tel. 03-3364-2311、03-3364-7127 fax. 03-3364-7104

Email: endo@kahaku.go.jp

¹⁴C AND ARCHAEOLOGY FOURTH SYMPOSIUM: APRIL 9-13, 2002, OXFORD

We are pleased to announce the dates and venue for the Fourth ¹⁴C and Archaeology Symposium, which will be held in Oxford between April 9-13, 2002. The conference is being organised by the Oxford Radiocarbon Accelerator Unit, Research Lab for Archaeology and the History of Art, University of Oxford. We invite you to register an offer of interest in attending the conference by sending an email to orau@archaeology-research.oxford.ac.uk You will then be put on an email address list for the second circular.

The following sessions are proposed, but we do invite suggestions for additional, or perhaps replacement sessions from interested participants: 1. Colonisations and extinctions, 2. High resolution dating, 3. Problems commonly encountered 4. World archaeology, and 5. European archaeology.

Organising Committee:: Prof. R. Hedges, Dr C. Ramsey, Dr T. Higham, Mrs C. Owen.

Address for correspondence:

Oxford Radiocarbon Accelerator Unit,

Research Laboratory for Archaeology and the History of Art, 6 Keble Road,

Oxford OX1 3QJ, England. Fax: + 44 0 1865 273932

Email: orau@archaeology-research.oxford.ac.uk <http://www.c14dating.com>

5th International Conference on the Cenozoic Evolution of the Asia-Pacific Environment (CEAPE): 2nd CIRCULAR

Date- 29th October to 1st November, 2001, Venue -The University of Hong Kong

Organisers

Department of Earth Sciences, The University of Hong Kong, Department of Earth Sciences, National Natural Science Foundation of China (NNSFC), Institute of Geology and Geophysics, Chinese Academy of Sciences (CAS), China Quaternary Research Association (CHIQUA)

Provisional sponsors

Croucher Foundation, Dr Stephen S.F. Hui Trust
International Geological Correlation Programme
Project no. 464

In collaboration with

California Academy of Sciences, Geological Society of Hong Kong, PAGES, International Geosphere-Biosphere Programme, and Commission on Sea-level Changes & Coastal Evolution, International Union for Quaternary Research

Organizing Committee

Honorary Co-Chairs:

Prof. Edward Chen, Prof. Tungsheng Liu, Prof. John Malpas, Prof. Fuchen Ma, Prof. Xiuji Zhou,

Conference theme

The main theme is the paleoenvironment and the contemporary environment of the Asia-Pacific region covered by the Pole-Equator-Pole (PEP) II transect extending from the Russian Pacific region down to Antarctica. Special focus on long Quaternary records particularly during glacial cycles.

Programme

28th October -Arrival and registration

29th October -Opening ceremony, Scientific session 1: *Paleoenvironment and Global Changes* (Liu Tungsheng, Allan Chivas, and others), Scientific session 2: *Monsoon and Aridity* (Jim Bowler, An Zhisheng, Ding Zhongli, and others), and Reception

30th October -Scientific session 3: *Uplift of Qinghai-Xizang Plateau and Implication on the Environment* (Nat Rutter, Li Jijun, and others) and Scientific session 4: *Sea-Level Changes and Its Impact on Environments* (Wang Pinxian, Wang Ying, Wyss Yim, and others)

31st October -Scientific session 5: *Paleoenvironment and Human Origins, Innovations and Migrations* (Wu Xinzhi, Nina Jablonski, and others) and Field excursion

1st November -Poster session, Workshop: Scientific studies and cooperation in the PEP II region; The future of CEAPE, Closing session, and Conference dinner

Friday 2nd November, 2001-Departure

Abstract & paper submission

Abstract in English not exceeding one A4 page should be prepared for submission. Although it is still undecided where the papers are to be published, they should be prepared in the same format as the journal *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*.

Registration

No registration fees will be charged to participants contributing oral and poster papers. All other participants will be charged HK\$600 if registered by 1st September 2001 and HK\$700 if registered after 1st September 2001.

Deadlines

Submission of abstracts	1st July, 2001
Notification of acceptance	1st August, 2001
Submission of manuscript	1st October, 2001
Publication of papers	June 2002

Contacts

Dr Wyss Yim
Department of Earth Sciences
The University of Hong Kong
Pokfulam Road
Hong Kong SAR, China
Fax: 852-2517 6912
E-mail: wwsyim@hku.hk

and

Prof. Jiamao Han
Institute of Geology & Geophysics
Academia Sinica
P.O. Box 9825
Beijing, 100029 China
Fax: 86-10-6201 0846
E-mail: jmhan@public.east.cn.net

『ESR 放射線量計測と年代測定の新展望』国際シンポジウム
International Symposium on New Prospects of ESR Dosimetry and Dating

2001年10月25日(木) - 10月27日(土)

開催予定場所：大阪大学豊中キャンパス(基礎工学部国際交流棟：シグマホール)

主催：ESR 応用計測研究会 (協賛：日本第四紀学会)

「電子スピン共鳴(ESR)放射線量計測とその応用」に関する国際会議は、1985年に山口大学での「第1回ESR年代測定国際シンポジウム(放射線量計測を含む)」に始まり、ドイツ、アメリカ、ロシアの諸外国で3年毎に開催されてきました。この間、地球科学、考古学、人類学、法医学、将来の惑星探査での氷天体の年代測定への展開やチェルノブイリ事故の住民被曝の線量計測、照射食品の評価など、広い分野に大きく発展しました。

「ESR 応用計測研究会」(現在、約120人)は、ルミネッセンス研究者と共に年代測定や線量計測を学際的に展開して世界をリードしてきましたが、21世紀の初めの年にESRとルミネッセンスを含め20世紀の学際的展開を総括し、21世紀における新しい展望を示す国際会議を開催します。

<会議の目的と学術的意義>

- 1) ESR & ルミネッセンス年代測定による21世紀の地球惑星科学へのアプローチ
- 2) 放射線照射効果の物性、照射食品線量評価、高レベル放射能廃棄物の地層処分の基礎研究
- 3) 東海村JCO事故とESR & ルミネッセンス事故放射線計測
- 4) 宇宙環境におけるESRとルミネッセンス線量計測、惑星探査
- 5) 磁気共鳴イメージング法と小型ESR、新しいルミネッセンス法の開発
- 6) 超高感度ESR線量計とESR分光器、磁気共鳴画像(MRJ)計測の開発

ESR年代測定は、1975年に秋芳洞鍾乳石(炭酸塩鉱物)の自然放射線照射効果をESRで検出して以来、貝殻、珊瑚の化石、化石骨、石英砂、湖底堆積物を対象とし、地質学、人類学、考古学、法医学の年代測定へと発展してきた。新手法やルミネッセンス法とのクロスチェックを議論する。

ESR人体被曝量評価は、原爆生存者の歯の被曝線量評価から始まり、チェルノブイリ住民やセミパラチンスク核実験場周辺の住民の被曝評価に利用されている。東海JCO事故については、日本原子力学会会長の住田健二先生(前、原子力安全委員)の招待講演、特別セッションで事故線量計測を議論する。

ESR放射線量計は、国際原子力機構IAEA規格やJIS規格になるアラニン線量計や専用の小型ESR線量リーダーも開発された。超高感度材料の開発戦略を議論し、画像計測につなげる。

この国際会議は、e-mailで連絡し経費の節減に努め、登録費はパーティ会費、会議録費を含みます。「アブストラクト賞」：投稿要旨を審査し、画期的な研究には、滞在費、旅費付きの賞で支援します。今後の連絡：詳細はウェブページを参照の上、参加&発表の方は連絡下さい。学生登録費は半額です。

締め切り：早期割引登録費1万円&題目申し込み 2001年7月1日

Abstract送付 2001年8月30日、会議録原稿 2001年10月10日

登録費：12,000円

払込：三井住友銀行池田支店(153) No. 1506374 ESRDD 国際会議 代表 池谷元伺

連絡先&事務局

560 - 0043 豊中市待兼山町1 - 1 大阪大学大学院理学研究科

宇宙地球科学専攻量子地球物理学講座内

ESR 応用計測研究会(委員長：池谷元伺、書記：山中千博、平井誠、谷篤史)

Te1: 06 - 6850 - 5490 Fax: 06-6850-5540

e-mail: esrdd@ess.sci.osaka-u.ac.jp

http://quartz.ess.sci.osaka-u.ac.jp

Ninth International Conference on Accelerator Mass Spectrometry AMS-9 in 2002: First Announcement Nagoya, Japan, September, 9-13, 2002

General

Following the AMS-9 ballot conducted by Prof. Walter Kutschera and his colleagues of the Vienna AMS group, we, Japanese AMS groups, are selected to organize the AMS-9. We are honored to host the AMS-9 and would like to do our best to make it a fruitful and enjoyable conference.

Participants to AMS conferences are increasing rapidly and the number was more than 300 at the AMS-8 in 1999. This suggests that technical developments are running faster and applications in various fields are becoming more and more important. We may expect more than 300 attendees to the AMS-9.

Japanese participation into AMS studies is not late. Both tandem facilities of the University of Tokyo and Kyoto University started their research on AMS in 1980. The studies were aimed to detect ^3H , ^{10}Be , ^{14}C . Finally, routine ^{10}Be measurements were started at the University of Tokyo in 1982. In addition, a GIC Tandetron was installed at Nagoya University in 1981-1982, and routine ^{14}C dating was started in 1983. As the result of the 20-year-long history, more and more members in AMS application researches are enjoying wonderful fruits of AMS technology and eight AMS facilities are running their own ways in Japan.

It may needless to mention that Chinese AMS groups have marked a great success in the chronological research of their archeological properties. A new AMS facility with a HVEE Tandetron accelerator has been established for ^{14}C dating applications at Seoul National University, Korea.

Eight previous AMS conferences were held in USA, Switzerland, Canada, France, Australia, and the latest one in Austria. No AMS conference has been hosted in Asia before, so it is a good opportunity for the East Asian AMS teams to present achievements in their home ground. We, the Japanese AMS research groups, are honored to host the AMS-9 in Japan.

Objective

The purpose of the Conference is to assess, exchange and share our most recent development of AMS techniques, both AMS machines and the preparation of samples, as well as new findings in a variety of application fields. To achieve this objective, in addition to the main Conference that will cover all kinds of subject, pre- and post-conference workshops

will be organized, in which several topics will be discussed in detail. Some of the workshops can possibly be hosted by AMS groups in China and Korea.

Dates and Locations

The Conference will be held for 5 days from September 9 to 13 (Monday to Friday) in 2002. The main venue for the Conference is Nagoya University locating eastern rim of Nagoya City, about 450 km west from Tokyo, almost 2 hours by the bullet train (shinkansen), and about 200 km east from Kyoto, less than one hour by the bullet train.

The possible satellite venues for workshops and laboratory tours are Kyoto University, Tono Geoscience Center, University of Tokyo, and National Institute for Environmental Studies.

Schedule

The tentative schedule is as follows:

- April 2001: Distribution of the 1st circular
- Sept. 2001: Distribution of the 2nd circular
- May 2002: Deadline for submission of abstracts, hotel reservation and registration
- July 2002: Final announcement of the conference
- Sept. 2002: 9th AMS International Conference
- Oct. 2002: Deadline: manuscripts submission

Expression of Interests in Conference

If you are interested in receiving future circulars concerning AMS-9, please send information regarding (1) your name, (2) affiliation, (3) e-mail address, (4) phone and fax numbers and (5) mailing address to the conference secretariat either by e-mail, fax or post. Using e-mail for all correspondence is preferable. Please keep watching the web site below to get the newest information.

Conference Secretariat

Prof. Toshio Nakamura,
The Conference Chairperson
Center for Chronological Research,
Nagoya University
Furo-cho, Chikusa-ward, Nagoya 464-8602 Japan
Phone: +81-52-789-3082, Fax: +81-52-789-3092
E-mail: ams9@nendai.nagoya-u.ac.jp
URL: <http://www.nendai.nagoya-u.ac.jp/AMS-9/>

研究職員 選考採用者の募集

産業技術総合研究所活断層研究センターでは、博士課程修了者(採用予定日前に博士課程修了見込の者を含む)等の中から広く人材を求めるため、研究職員を公募により選考採用します。平成13年度において若手育成型任期付研究員を下記の内容により募集を行います。

記

1. 採用予定者人数 1名
2. 採用予定者の研究領域等 地質学及び地震学の融合分野としての地震被害予測研究を行うため、活断層近傍の地下構造の解析・第四紀地質に関する高度な知識と野外調査能力を持った研究者
3. 応募要領等
 - (1) 応募資格
博士課程修了者又は修了見込者(採用予定日前に博士課程を修了し、学位取得が可能な者)及びこれに相当する者
 - (2) 提出書類(提出書類が英文等の場合は、和訳を添付する。)・・・各1部
 - A. 履歴書(市販のJIS様式又はこれに準拠するものに限る)
 - B. 学部卒業証明書及び成績証明書
 - C. 修士課程修了証明書及び成績証明書
 - D. 博士課程修了(見込)証明書及び成績証明書
 - E. 在職証明書(就職されている場合)
 - F. 研究業績リスト
 - G. 修士論文・博士論文の要約
(注)博士論文がまとまっていない場合は、現在論文にまとめようとしている研究の概要について書いたものを提出する。
 - H. 研究業績2～3点(論文等の要約も添付)
 - I. これまでの研究概要と今後の抱負(2,000字程度)
 - (3) 給与
産業技術総合研究所職員給与規程に基づき決定。
例えば、博士課程修了者でただちに採用となった場合、俸給月額が273,100円。なお、俸給月額の外に職責手当、期末手当、業績手当、超過勤務手当などの諸手当あり。
 - (4) 公務員宿舍 独身、単身、世帯用宿舍あり。
 - (5) 公募の締切
平成13年7月13日(金)までに封筒に朱書きで「選考採用応募書類在中」と「応募する研究分野名の番号」を明記の上、下記まで送付。
送付先 〒305-8561 茨城県つくば市東1-1-1 つくば中央第1事業所
独立行政法人産業技術総合研究所 能力開発部門人事室任用担当
 - (6) 選考方法
 - A. 予備審査(ユニット内選考)・・・7月下旬
 - B. 予備審査(第一次面接)・・・8月中旬
* 第一次面接は、論文審査で推薦された者。
 - C. 最終審査(第二次面接)・・・8月下旬
* 第二次面接は、第一次面接で合格した者。
 - (7) 採用予定日 平成14年4月1日
 - (8) その他
産業技術総合研究所のホームページ: http://www.aist.go.jp/index_j.html
活断層研究センターホームページ: <http://unit.aist.go.jp/actfault/activef.html>

募集概要で不明の点についての問い合わせは下記担当までお願いします。

独立行政法人産業技術総合研究所 能力開発部門人事室任用担当

TEL 0298-61-2016 FAX 0298-61-2019 E-mail j-ninyou1@m.aist.go.jp

日本第四紀学会 2000 年度第 6 回幹事会 議事録

日時：2001年3月17日(土)10時30分～12時30分

会場：筑波大学学校教育部2階合同研究室

出席者：福澤，熊井，中村，米倉，松浦，真野，
中川(学会事務センター)

報告：

<庶務>

- 1) 第4回および第5回幹事会議事録(案)の報告
- 2) 評議員会議事録(案)の報告
以上の2件はすでにメールにより提案済み
- 3) 掲載許可申請1件あり。
- 4) 学会事務センターより会員名簿作成の準備状況についての報告。
* 個人情報の保護のために会員現況調査の方法をはがきから封筒に変更，eメールの項をもうけるが，全体の経費は前回の場合と変わらない予定。
- 5) 2001年大会の開催時期が早まることによる種々の対応。
* 大会プログラムの掲載：6月発行の第四紀通信3号に掲載。例年の4号(8月発行)では遅すぎる。
- 6) 会員名簿の発送は第四紀通信4号と同時に第四紀研究4号の付録とする

<編集>

- 1) 編集状況について，資料により説明があった。今年に入ってからの投稿はすでに10件あり。
- 2) カラー印刷の原稿がある。この扱いについて本文中にカラーで掲載すると著者負担となるが，口絵にした場合は学会負担となり，以前にも例があるのでその方向で検討する。
- 3) プレシンポ特集号は40巻3号に掲載。
- 4) ヒマラヤシンポの掲載予定は未定。
- 5) 編集作業の若干の変更：新たに投稿された原稿は編集書記がまとめて保管し，次回の編集委員会の席で全員に開示し分担を決める。

<行事>

- 1) 2001年大会について：会期2001年8月1日～4日(資料)，会場鹿児島大学このほかの準備状況について報告あり。なお，大会期間中のどこかに「INQUA招致に関する検討委員会」の報告と質疑の時間を設ける予定
- 2) 地球惑星科学関連学会合同大会の準備状況：会期2001年6月4日～8日。第四紀学会の申し込み分「第四紀」のセッションは6月6日午前中となった。申込件数はオーラルが10件，ポスターが11件。ただし他のセッションにも第四紀関連の講演が申し込まれているので，全体では第四紀学会会員の発表は少なくはない。
- 3) 特別セッション(招待講演)は同じく6月6日全日となっている。
- 4) 2002年大会は信州大学を予定。関係者に当たっており，実施の方向で調整が進められている。

<会計>

- 1) 会員名簿作成の日程や会員現況調査用紙のフォーマット等についての報告があった
- 2) これに関わる経費については大幅な支出が必要であり，これについては先の評議委員会で承認されたのでこの方向で処理する予定
- 3) 名簿掲載の広告については広告依頼を関係各社に送付する。送付先について検討の必要あり

審議：

<会計>

- 1) 先の報告に基づいて，名簿作成から発送までの手順等についての審議を行った
* 広告の掲載についての依頼状の発送先について協議し，出版関係を増やすことになった。また，その発送日や締め切り等についての確認を行った
* 名簿の発送方式について：会誌の「付録」の形式にして，会誌(第40巻4号)に併せて郵送
* 名簿作成に関わる会計処理について：2001年大会の会期に係かってしまうので，次年度決算として繰り越す

<会長依頼の件> 合同大会より依頼されている特別セッションへの「特別講演」依頼について：会長より個人的な事情により，会長講演とはせずに，会員の中で中堅として活躍している方をお願いしたいという申し出により検討した。
この結果，第四紀学の研究では最近特に重要性が増してきている年代決定法分野で，その発展の中心的立場にいる幹事の中村俊夫氏をお願いすることになった

<INQUA招致> 第四紀研連に設置されている「2007年INQUA日本招致に関するワーキンググループ」が目下検討中なので，その結果を基に鹿児島大会で報告し，検討してもらうことにしている。特にこのような大会ではローカルオーガナイザーの存在が大事でその適任者の候補者と目される方と連絡を取り，承諾を得てから，大会を引き受けることの見通しを立ててもらおう方向で準備をしている。

大会プログラムの中に組み入れる準備をしているが，総会の前後に入れることで検討してもらう。

<次期執行部>

- 1) 今期の幹事は半数以上が入れ替わることになる。また，この際任期の制限のない会長，副会長について交代してほしいとの要請があった。その趣旨は了解された。
- 2) また，この他INQUA大会に関する検討。および，本学会50周年記念事業に関する大枠を今期の幹事会で作成し，次期に申し送りをする。
- 3) 以上の2点については次回の幹事会でさらに検討することになった。

<承認事項> 掲載許可申請のあった1件について了承し，承諾書を申請者に送ることになった。

発行日程変更のお知らせ

第四紀通信第8巻4号は、8月1日から開催される鹿児島大会のプログラムを会員の皆様にお知らせするために、編集・発行が通常より1ヶ月早まります。また、第8巻4号の編集は下記広報委員が担当します。投稿される方はご注意ください。

第8巻5号以降は、通常どおり2001年10月から隔月に刊行します。

第四紀通信に原稿をお寄せ下さい

福島大学教育学部・地理 後藤秀昭 〒960-1296 福島市金谷川1

hgoto@educ.fukushima-u.ac.jp

Phone & Fax: 024-548-8166

ニュース・原稿をお寄せ下さい

次号は6月下旬原稿締切 - 7月上旬発行予定です。

インターネットにアクセスできる方は第四紀学会ホームページ

<http://www.soc.nacsis.ac.jp/qr/> で最新情報をチェックして下さい。